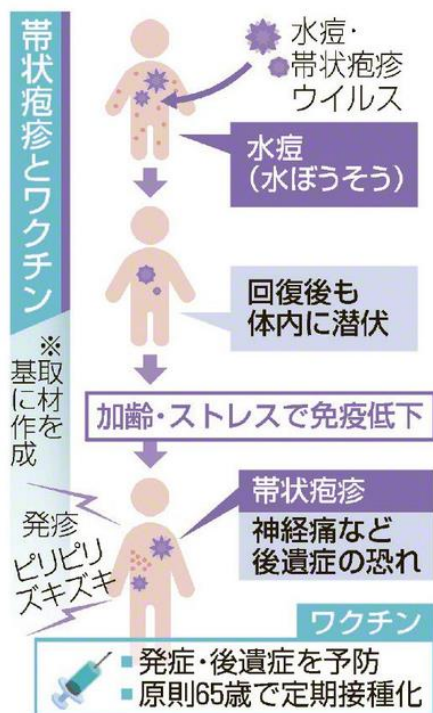




水ぶくれは黄色い膿を持ち、1週前後で破れてただれ、発症から2週間で瘡蓋(かさぶた)となり3週間で治癒する。胸や腹部のほか、高齢者では目の周りや額など顔面に発疹が出ることも多々あります。

【好発年齢】

特に高齢者に好発し、全体の66歳を50歳以上が占めます。免疫調査では発症のピークは男女とも60代。1997年～2017年の21年間で、人口が減少したのに発症実数は55歳、人口当たりでは68歳増えています。発症が年2歳ずつ増えており、80歳迄に3人に1人が罹患するといわれています。

【後遺症】

帯状疱疹後3ヵ月以上続く痛みは「**帯状疱疹後神経痛 (PHN)**」と呼ばれ、数年残ることもある。50歳以上だと、約2割はPHNを合併するといわれています。持続する疼痛が原因で気力を失い、仕事などの日常生活に支障きたすこともある。急性期の強い痛みに対して神経ブロック療法の効果も乏しいです。その他 脳梗塞や心筋梗塞などのリスクも上昇するという報告もある。発症を抑えられれば後遺症も防げるため、ワクチン接種は有効な選択肢となります。

2種類のワクチンから選択

ワクチンは2種類あります。受診・接種時に主治医より説明を受けてください。

①ビゲン (生ワクチン) 一回で終了

生ワクチンは水痘ワクチンとして小児に定期摂取するものと同じもの。皮下への一回接種で、不活性に比べて副反応が少ない。ただ 生ワクチンのため免疫を抑える薬や妊婦には使用不可。

②シングリックス (不活性化ワクチン) 間隔開け2回接種

不活性化ワクチンはビールの表面にある一部の蛋白質と免疫を強める物質を組み合わせたもので、2～6か月の間隔で2回目を筋肉注射が必要。副反応として注射部位の腫れのほか、発熱や疲労感、筋肉痛といった全身の反応が見られるが、数日で収まる。